



Fiery proServer 7.2 Quick Start Guide

© 2020 Electronics For Imaging, Inc. 本書に記載されている情報は、本製品の『法律上の注意』の対象となります。

2020年7月14日



目次

はじめに	5
Command WorkStation ユーザーインターフェースの概要	6
Command WorkStation の言語を変更する	6
印刷ファイルの管理	7
ホットフォルダーの設定	7
インポートフォルダーへのショートカットを作成する	8
Job Center にジョブをインポートする	10
ジョブを編集および印刷する	11
仕上げオプション	12
システムバックアップ	13
システムバックアップの作成	13
システムバックアップの復元	13
環境	14
環境を作成する	14
環境を復元する	14
サードパーティ製のメディアプロファイルを実装する	16
Command WorkStation でサードパーティ製のメディアプロファイルを選択する	16

はじめに

本書は、Command WorkStation の使用方法に関するステップバイステップガイドです。
本書では、以下のトピックについて説明しています。

- Command WorkStation ユーザーインターフェイスの概要
- Command WorkStation の言語の変更
- 出力フォルダーの設定（ホットフォルダーの設定方法を含む）
- ジョブのインポート
- ジョブの編集と印刷
- クロップマークとカット輪郭
- Command WorkStation システムのバックアップ
- 単一ファイルでのプリンター、用紙、ワークフロー設定のバックアップ

メモ：

- Fiery XF server のヘルプドキュメント全セットについては、<http://help.efi.com/fieryxf/index.html> を参照してください。
- Fiery proServer および Fiery XF server 証明書、およびその他の無料コースの詳細については <https://learning.efi.com/category/xf> を参照してください。

Command WorkStation ユーザーインターフェイスの概要

Command WorkStation は、3つのプログラムウィンドウで構成されています。

- **Job Center** は Command WorkStation のスタート画面です。ここでは、ジョブをロードしたり、印刷を開始したりできます。
- **Job Editor** では、ジョブを編集します。ここでは、ジョブの拡大縮小と回転、スポットカラーの管理、タイリングの作成、カラー調整などを実行できます。ジョブ設定は、ワークフローのデフォルト設定を上書きします。
- **Server Manager** では、ワークフロープリセットの作成、メディアプリセットの適用、プリンターの設定、ユーザーの作成を実行できます。

Command WorkStation には包括的なヘルプシステムが備わっています。ソフトウェアの各機能の設定方法や使用方法に関する詳細な情報を確認できます。ヘルプ>ヘルプを選択すると、ヘルプにアクセスできます。

Command WorkStation の言語を変更する

Command WorkStation の言語を、サポートされている任意の言語に変更できます。

- 1 Job Center で、**編集 > 環境設定**をクリックします。
- 2 **地域**をクリックします。
- 3 言語を選択します。
- 4 OK をクリックします。
- 5 Command WorkStation を再起動します。

この設定は、オペレーティングシステム、キーボード、Fiery Server Control の言語には影響しません。これらの Fiery proServer コンポーネントの言語の変更については、『インストールガイド』を参照してください。

印刷ファイルの管理

プロセスの自動化に役立つフォルダーを設定することにより、印刷ファイルを最も効率的に管理することができます。

ジョブの入力については、ホットフォルダーを設定することをお勧めします。ホットフォルダーとは、Command WorkStation によって定期的に監視される一元的なフォルダーです。ホットフォルダーにあるジョブは、処理のために Job Center に自動的にロードされます。

ジョブの処理が完了すると、Command WorkStation によって印刷ファイルが次のフォルダーに保存されます。

- IP ネットワークを介して接続されている EFI VUTEk プリンター：Fiery XF server により、RTL 印刷ファイルは、Fiery XF server で指定されているプリンターワークスペースへと自動的に転送されます。この方法を使用することをお勧めします。
- ファイルに印刷するように設定されている EFI VUTEk プリンター：Command WorkStation により、印刷ファイルは Fiery proServer のエクスポートフォルダーに保存されます。印刷ファイルをエクスポートフォルダーから EFI VUTEk プリンターに手動でコピーする必要があります。
- EFI Matan および EFI Reggiani プリンター：Command WorkStation により、印刷ファイルはエクスポートフォルダーに保存されます。印刷ファイルをエクスポートフォルダーからプリンターに手動でコピーする必要があります。
- EFI Wide Format プリンター：Command WorkStation により、印刷ファイルは Fiery proServer のエクスポートフォルダーに保存されます。プリンタソフトウェアを使用してファイルを印刷します。

メモ：

用紙消費量とインク消費量に関する情報を Command WorkStation に送信するように EFI プリンターを設定できます。print MIS デバイス、Command WorkStation、使用している EFI プリンターの間の双方向通信の設定について詳しくは、『Fiery Command WorkStation Help』を参照してください。

ホットフォルダーの設定

ホットフォルダーを使用すると、ユーザーは印刷ジョブを一元的に使用可能なフォルダーにコピーして印刷できるようになります。ホットフォルダーを介して印刷するには、ネットワークアクセス権限が必要です。

ホットフォルダーは Fiery XF server と同じコンピューター上に配置するか、ネットワークを介してアクセスすることができます。ローカルのハードディスクドライブ上では、ホットフォルダーをジョブフォルダーまたはエクスポートフォルダーのサブフォルダーにすることをお勧めします。

次の点に注意してください。

- 不要な読み取り/書き込みアクセス問題を回避するために、デスクトップ上にホットフォルダーを作成しないでください。
- 内部リンクとしてマップされているフォルダーは選択しないでください。

- 1 **Server Manager** の場合: サイドバーでプリンターをクリックし、プリンターを選択します。プリンターのツリー表示で、ワークフローを選択します。ファイルタブのジョブ検出パネルを開きます。
- 2 名前から選択をクリックし、ホットフォルダーとして使用するフォルダの場所を参照します。
- 3 すべての受信ジョブを保留にするチェックボックスをオフにします (オプション)。
デフォルトでは、インポートしたジョブは「保留」ジョブとしてインポートされ、印刷前に編集することができます。インポート時に自動的にジョブを印刷する場合はこのチェックボックスをオフにします。
- 4 フォルダー選択をクリックします。
- 5 開始をクリックしてホットフォルダーを有効にします。

次を実行してください。

- ホットフォルダーがオペレーティングシステム内の共有プリンターに設定されていることを確認します。正しく設定されていない場合は、ホットフォルダーをネットワーク内で検出することはできません。
- ホットフォルダーと **Fiery XF server** が別のコンピューターにインストールされている場合は、すべての **Windows** コンピューターに同じログイン情報が設定され、すべてのユーザーがシステム管理者権限を持っていることを確認します。両方のコンピューター上でユーザーの新規作成が必要かもしれません。

詳細については、オペレーティングシステムのオンラインヘルプを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

インポートフォルダーへのショートカットを作成する

ファイルに出力するように **EFI VUTEk** プリンターを設定した場合、**Fiery proServer** デスクトップ上にショートカットを作成すると、印刷ファイルをプリンターのインポートフォルダーに転送できます。

- 1 画面の左下隅にマウスポインターを移動して、**Windows** アイコンを表示します。
- 2 **Windows** アイコンを右クリックして、**エクスプローラー**をクリックします。次に、**PC** を右クリックして、**ネットワークドライブの割り当て**をクリックします。
- 3 接続用のドライブ文字と接続先のフォルダーを指定します。
- 4 次の構文を使用して、共有フォルダーの場所を入力します。
¥¥Printer_IP_Address¥Import¥
- 5 別のログイン情報を使用して接続するを選択します。
- 6 完了をクリックします。
Windows セキュリティウィンドウが開きます。
- 7 **VUTEk** のログイン情報を入力します。
ユーザー名とパスワードはどちらも **vutek01** です。
- 8 ログイン情報を記憶するを選択し、**OK** をクリックします。
Windows により、インポートフォルダーへの接続が設定され、割り当てられたドライブがエクスプローラーに表示されます。

- 9 Windows アイコンをクリックし、エクスプローラーをクリックして、割り当てられたドライブをデスクトップにドラッグします。

Job Center にジョブをインポートする

ジョブは、直接 Job Center にロードすることで、インポートできます。すでにホットフォルダーを設定済みの場合、ジョブはそのホットフォルダーから Job Center に自動的にインポートされます。

- 1 Job Center のツールバーで、インポートをクリックします。
- 2 ジョブを参照し、開くをクリックします。
ファイルのインポートダイアログボックスが開きます。
- 3 追加ボタン (+) をクリックして複数のジョブをインポートします (オプション)。
複数のジョブをインポートする場合は、ジョブを選択し、上/下向き矢印をクリックすることで、ジョブの表示順序をソートできます。
- 4 プリンターを選択します。
- 5 サーバーワークフローを適用を選択し、作成したカスタムワークフロープリセットと、メディアプリセットを選択します。
- 6 全ジョブをネスティングを選択します (オプション)。
この設定により、表示されているすべてのジョブはネスティングとしてインポートされます。また、ネスティングは、後から Job Center で個別にインポートしたジョブから作成することもできます。
- 7 待機をクリックします。
待機ジョブは、Command WorkStation ですぐには処理されません。これにより、ジョブの設定が容易になります。ジョブを編集した後に、ジョブの処理を手動で開始できます。

ジョブは、Command WorkStation にインポートされ、Job Center に表示されます。

ジョブを編集および印刷する

ロードされたジョブにはジョブ固有の設定を適用できます。ジョブ設定は、選択したワークフロープリセットのデフォルト設定を上書きします。

次の手順では、基本的なジョブ設定の例を示します。ジョブの編集について詳しくは、『Fiery Command WorkStation Help』を参照してください。

- 1 Job Center で：ジョブをダブルクリックします。
- 2 Job Editor で：ジョブプレビューを選択します。
- 3 ジョブを回転するには：ツールバーの回転/送りで、回転角度を選択します。
- 4 ジョブを拡大縮小するには：ジョブを右クリックし、拡大縮小、適応先の順にクリックして、項目をクリックします。
- 5 シート上でジョブの位置を揃えるには：ツールバーの位置揃えで、水平方向および垂直方向の位置揃えの種類をクリックします。マージンで、上、下、左または右のマージンの幅を入力します。
- 6 ジョブラベルを編集するには：レイアウトタブで、ジョブラベルパネルを展開し、編集をクリックします。
- 7 ネスティングを編集するには：レイアウトタブで、ネスティングパネルを展開します。
たとえば、ページの均一な拡大縮小を適用し、方向を選択して、ネスティングされるジョブ間の間隔を定義することができます。
- 8 ジョブをタイリングするには：レイアウトタブで、タイリングパネルを展開します。パネルヘッダーバーで、チェックボックスを選択して、設定を有効にします。
均一またはカスタムのタイルサイズを定義することができます。また、ツールバーのタイリングプレビューをクリックすると、1つまたはすべてのタイルの WYSIWYG プレビューを表示することもできます。プレビューを PDF ファイルとして保存し、印刷後にタイルをつなぎ合わせる際のガイドとして使用することができます。
- 9 スポットカラーを定義するには：カラータブで、スポットカラーパネルを展開します。表のソース列で、不明なスポットカラーの横にある下向き矢印をクリックし、次のいずれかの操作を行います。
 - スポットカラーを内部スポットカラーライブラリのカラーにマッピングするには：PANTONE などのスポットカラーの製造元を選択し、内部スポットカラーライブラリからカラーを選択します。
 - カラー値を定義するには：CMYK や L*a*b*などの色空間を選択し、選択した色空間のカラー値を入力します。
- 10 保存をクリックします。
- 11 Job Center で：ジョブを選択します。ツールバーで、印刷をクリックします。

仕上げオプション

Command WorkStation は、クroppマーク、Fotoba マークまたはグロメットマークを印刷することで、用紙を正確にトリミングできます。また、Command WorkStation は、カット裁断を抽出し、i-cut カッター、Zünd Cut Center またはサポートされている任意のプリント&カットプロッター、内蔵カッターまたは予備カッターに直接出力することもできます。

特定の種類のカットマークを処理するには、次のオプションが必要です。

- **Cut Marks Option:** i-cut、ZCC、DXF、SGP、OXF、または他の裁断ファイル形式で、より大きなフラットベッドカッターを駆動する場合に必要です。Zünd Cut Center へのネットワーク接続の設定にも必要です。
- **Cut Server オプション:** 追加の外部 Fiery XF Cut Server を実行するために必要です。は Fiery XF Cut Server、他の裁断形式をサポートしていないカッターモデル (SUMMA、Mutoh、Graphtec など) への接続性を提供します。

Cut Server のインストール、または i-cut カッター、Zünd Cut Center、あるいはサポートされているプリント&カットデバイスをセットする詳細については、『Fiery Command WorkStation Help』を参照してください。

システムバックアップ

定期的にバックアップを作成すると、Command WorkStation を以前の状態にすばやく容易に復元できます。

システムバックアップにより、すべてのユーザー設定、すべてのプリセット、およびすべてのプリンター設定を含む Fiery システム全体を、1つのファイルに保存できます。

Fiery proServer システムをバックアップすることもできます。その場合は、問題が発生しても、Fiery proServer を以前の状態に復元できます。出荷時の設定に戻す必要はありません。詳しくは、『設定ガイド』を参照してください。

システムバックアップの作成

すべてのユーザー設定、すべてのプリセット、およびすべてのプリンター設定を含む Fiery システム全体を、1つのファイルにバックアップできます。

- 1 Server Manager で、サーバー、バックアップ/復元の順にクリックして、バックアップを選択します。
- 2 サーバー設定に加えて、バックアップに含める項目を選択します。
- 3 バックアップ先を選択します。

デフォルトでは、バックアップは C:\Users\Admin\AppData\Roaming\Server Manager\Backup に作成されます。別のバックアップ先を選択するには、選択をクリックし、新しいバックアップ先を参照します。

- 4 バックアップをクリックします。

システムバックアップの復元

以前作成したバックアップを復元することで、Fiery システムを元の状態に戻すことができます。

- 1 Server Manager で、サーバーをクリックし、バックアップ/復元をクリックしてから、復元をクリックします。
- 2 一覧からバックアップファイルを選択します。
一覧には、保存先のパスに関係なく、すべてのバックアップファイルが表示されます。
- 3 復元をクリックします。
- 4 Fiery server を再起動します。

環境

定期的に反復ジョブを出力する必要がある場合は、使用している環境を保存することでまったく同じ設定を使用できます。また、環境を使用すると、カスタマーに正確なワークフロー/プリンター情報を提供することもできます。

環境では、プリンター設定（すべてのワークフロープリセットとすべてのメディアプリセットを含む）が1つのファイルに保存されます。これには、別の Fiery server で同じプリンター環境を再現するために必要なすべての情報が含まれています。

環境を作成する

プリンター設定（すべてのワークフロープリセットとすべてのメディアプリセットを含む）を1つのファイルに保存できます。

- 1 **Server Manager** で：サイドバーで、**プリンター**をクリックし、プリンター名を右クリックして、**環境として保存**をクリックします。
- 2 環境名を入力します（オプション）。
- 3 保存場所を選択します。
デフォルトでは、環境はデスクトップに保存されます。別の場所を選択するには、**選択**をクリックして、新しい保存先を参照します。
- 4 **保存**をクリックします。

環境を復元する

プリンター設定、ワークフロープリセット、メディアプリセットで構成される保存済みの環境を復元できます。

- 1 **Server Manager** で：サイドバーで、**プリンター**をクリックします。プリンタータブヘッダーで、**環境をロード**ボタンをクリックします。
- 2 **選択**をクリックし、環境を参照します。
- 3 **上書きを許可**チェックボックスの選択を解除します（オプション）。
デフォルトでは、メディアプリセット、リファレンスプロファイル、メディアプロファイル、スポットカラーテーブルなど、同じ名前の付いた既存のファイルは上書きされます。このチェックボックスの選択を解除すると、既存のファイルを保持することができます。
- 4 **復元**をクリックします。

環境ごとに固有のプリンター接続があります。プリンター接続がすでに存在する場合、**Command WorkStation**では、環境と一緒にプレースホルダープリンター情報も復元されます。この場合は、ジョブをインポートする前にプリンター接続を設定する必要があります。

サードパーティ製のメディアプロファイルを実装する

サードパーティ製の CMYK/OG メディアプロファイルを Command WorkStation で使用するには、キャリブレーションファイルに接続します。

- 1 Job Center で：ツールバーで、Color Tools をクリックし、プロファイルを接続をクリックします。
- 2 プリンターキャリブレーションで選択をクリックし、EFI Media Profiles フォルダを参照します。
- 3 使用しているプリンターのフォルダを開き、サードパーティ製のメディアプロファイルのプロパティに最も近いメディアタイプと解像度のサブフォルダを開きます。
- 4 メディア名で、メディアの名前を入力します。ここで入力した名前が Command WorkStation に表示されます。
新しいメディア名を入力することをお勧めします。既存のメディア名を使用した場合、このメディアプロファイルには複数のキャリブレーションファイルが接続されることになり、Command WorkStation では適用するファイルを選択する必要があります。
- 5 プロファイルに接続で、メディアプロファイル ICC を選択し、選択をクリックして、メディアプロファイルを参照します。
- 6 OK をクリックします。

キャリブレーションファイルは EFI Media Profiles フォルダに保存されています。

これで、Command WorkStation でキャリブレーションファイルを選択できます。

Command WorkStation でサードパーティ製のメディアプロファイルを選択する

サードパーティ製のメディアプロファイルをキャリブレーションファイルに接続している場合は、Command WorkStation でそのプロファイルを選択できます。

キャリブレーションファイルは、..¥ProgramData¥EFI¥EFI Media Profiles の適切なサブフォルダに保存されている必要があります。

- 1 Job Center で：メディア設定で、編集をクリックします。
メディア設定ウィンドウが開きます。
- 2 メディア名で、Color Tools で定義したメディア名を選択します。
- 3 キャリブレーションファイルで、Color Tools で選択したキャリブレーションファイルを選択します。
使用可能なキャリブレーションファイルのリストはフィルタリングされ、選択したメディア設定の組み合わせに一致するファイルのみが表示されます。

- 4 保存をクリックします。

